

# ラ・セウ ベジャの丘 モニュメント集合地区

リエイダ



turóseuvella  
LLEIDA PATRIMONIMUNDIAL

## ラ・セウベジャの 丘モニュメント集 合地区

ラ・セウ ベジャはリエイダ市内で最も象徴的な建造物である旧大聖堂の名として知られ、また大聖堂が鎮座する小高い丘の名前でもあります。その上方に王の城 - スダ城が建っています。この2つの建造物は中世において丘陵全体を占め、のち17世紀以降に軍事要塞建設のため破壊されてしまった、優れたゴシック地区が残るただ一つの証となっています。

大聖堂、城、要塞は国立文化財として指定され、唯一無二のモニュメント集合地区を形作っています。

## ラ・セウ ベジャ

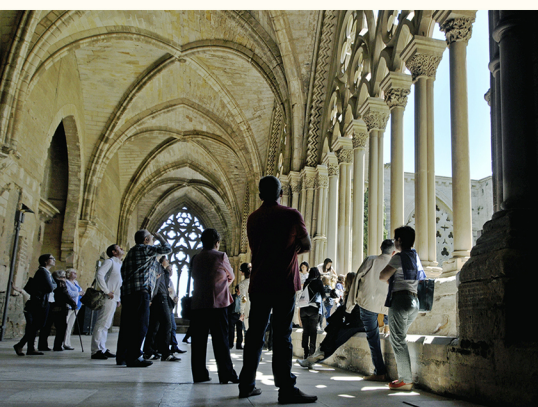
おそらくモスクの残骸の上に据えられたとされる大聖堂は、12世紀後期から15世紀にかけて建てられました。南ヨーロッパより優れた芸術家や職人らを結集したにもかかわらず、今では装飾不足や壁のモノトーンさで訪れる人々を驚かせています。というのもスペイン継承戦争(1701-1715)以降、軍の宿营地として形を変えて行ったため、と説明がつけられます。その1948年までに至った軍による使用に関し、スペイン内戦(1936-1939)時は収容所であったことを付け加えねばなりません。



ピア アルモニアの絵画。リエイダ美術館 (A, ベナベンテ)




内庭回廊中庭。20世紀半ば  
(フェラント資料館、COACリエイダ商業代理人公的組合)



内庭回廊内 北東回廊

## ラ・カノニカ

### 12世紀後半-15世紀

 現見学者受付であるこちらの区域は、司教らの居住施設でした。中世においては司教座聖堂参事会の間、公証古文書保管所、図書館、ピア アルモイナなど付属建造物も収容されていました。

こちらはコースのはじめ、または終わりに見学が可能です。貧民や、大聖堂への停留が決められていたサンティアゴゴデコンポステーラ巡礼者への食料提供をしていた慈善団体、**ピア アルモイナ(1)**を訪れてみてはいかがでしょうか。それらの様子は施設に飾られている壁画(14世紀-16世紀)にて、ご覧になれます。原画はリエイダ美術館に展示されています。

## 内庭回廊

### 13世紀後半-14世紀

こちらの内庭回廊は壮観な規模を誇り、ヨーロッパのゴシック様式の中でも大きいとされているものの一つです。高く幅広い4つの回廊に、豊かに装飾された17の大窓。スペース不足により大聖堂の下部に建てられたため、典型的なものとは趣を異にしています。そのため、他の修道院の住まいや祈りの場より離れた、見事な歓迎の間となりました。

この一風変わった特徴は、**展望台(2)**として例外的に市内に開かれている南東の回廊に強く残りました。



**ご存知でしたか？**

壁画の真ん中に作られた穴は、実際には物入れでした。大聖堂で最も有名な聖遺物である聖襦袢、幼子イエスのおしめが保管されていました。



詳細 定礎記念碑  
1203



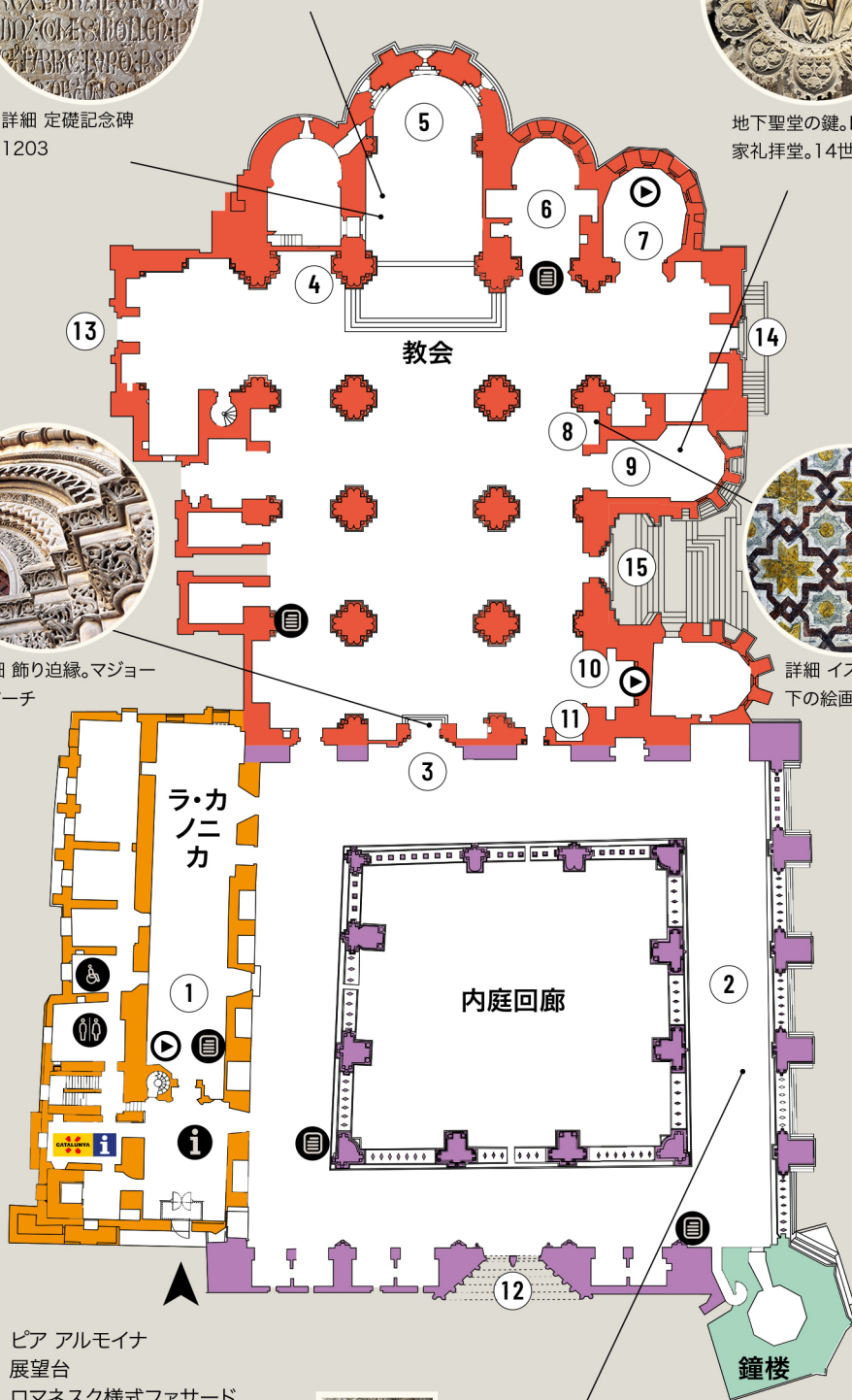
地下聖堂の鍵。レケセンス家礼拝堂。14世紀。



詳細 飾り迫縁。マジョールアーチ



詳細 イスラム教影響  
下の絵画



1. ピア アルモイナ
2. 展望台
3. ロマネスク様式ファサード
4. カピテレス デル アポストル サンティアゴ
5. 正面アプス
6. モンカダ家礼拝堂
7. クロム司教礼拝堂
8. サントトマス礼拝堂
9. レケセンス司教礼拝堂
10. サン フアン バウティスタ礼拝堂
11. サンタ マルガリータ礼拝堂
12. ロス・アポストレス門
13. サン ベレンガリオ門
14. ラ・アムンシアシオン門
15. エルス・フィジヨルス門



**ご存知でしたか？**

内庭回廊には石に掘られたゲームがあり、アルケルケ(ボードゲームの一種)の名として知られています。“ダマス(チェッカー)”または“トレス エンリネア(三目並べ)”を旧式で遊ぶことができます。

**ここに注目！**

内庭回廊にある17の大窓のうち、15が異なるものです。2つは同じもので、それぞれ向き合っています。南東の回廊、市内に開かれている回廊にてご覧になれます。

## 鐘楼

14世紀半ば-15世紀半ば

こちらの鐘楼はリエイダ市の紛うことなき象徴であり、遠方からの目印でもあります。高さ60,60メートルの鐘楼は238段の螺旋階段にて上部に登り、全景をお楽しみいただくことが可能です。こちらは他のモニュメントより30分早く閉館となりますので、見学行程の終わりにされることのないようお勧めいたします。



鐘楼、ロス・アポストレス門

## 教会

13世紀

内庭回廊のロマネスク様式ファサード(3)の門よりお越しいただけます。中に入るだけでも、その飾り気のなさに驚かれることでしょう。なぜなら軍の宿营地となった時より、多くのオーナメントが手足を失い、焼かれ、けがされてきたからです。この時期の聖像・聖画として状態のよいものはサンファンパウティスタ礼拝堂(10)にてご覧になれます。

こちらの教会は3棟の外陣、際立つ翼廊、波状のシュベを伴った、ラテン十字のバシリカ式です。特に柱頭や正面はロマネスク様式が占めています。ゴシック様式と共存しています。ここでは、ロス・カピテレス デディカードス アル アポストル サンティアゴ(使徒ヤコブに捧げられた柱頭)(4)にお立ち止まりいただくことをお勧めいたします。伝説的出来事の主人公になったことは説明するまでもなく、大聖堂が今も昔もサンティアゴ巡礼の道の一部を担っていることを思い起こさせます。

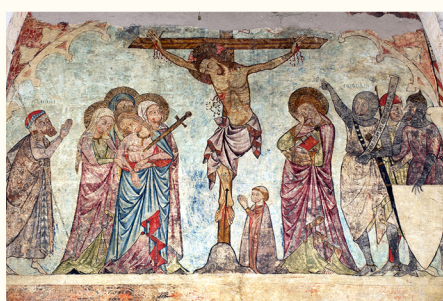
正面アプス(5)には定礎記念碑(1203年7月22日)と、イエスとマリアの生涯の場面が描かれた壁画集(14世紀前期)が設置されています。



中央外陣



サンティアゴ柱頭



キリスト磔刑の像。サンタ マルガリータ礼拝堂。14世紀

大聖堂内では私的埋葬のための厳粛なるスペースとして、いくつもの礼拝堂(13世紀-16世紀)が見受けられます。特に言及されるものとして、リエイダにおけるスペイン イスラム時代を裏付けている、サントトマス礼拝堂(8)が挙げられます。イスラム教の影響で編み込みの装飾が組み合わされた、聖母と幼子像が置かれています。レケセンス礼拝堂(9)ではその修復において、繊細に仕上げられた浮き彫りをご覧いただけます。

大聖堂見学は、外部散策にて終了となります。大聖堂正面ファサード、ロス・アポストレス ゴシック門(12)に始まり、教会のロマネスク様式各門に続きます。サン ベレンガリオ門(13)が最も簡素なものであり、より豪華であるのが、飾り迫縁、フリーズ、上部コーニスに建築上発展が見られる、ラ・アムンシアシオン門(14)、エルス・フィヨルルス門(15)です。





吊り上げ橋からの王の城 - スダ城

## 王の城 - ラ・スダ

### 12世紀後半-14世紀後半

アラゴン王国の巡回居住施設で、さまざまな君主が市内滞在の際に使用しました。一般的には、9世紀スペイン イスラム時代の城内、またはsuddaの上に建てられているため、ラ・スダの名で親しまれています。

完全なる防衛目的の外観のために市内で最も注目に値する一般建造物であり、政治的決断を左右する重要な機関でもありました。中央中庭の周りに長方形の平面、4つの外陣。こちらの中庭には種々の会合のための区域、居住施設、礼拝、防衛施設とさまざまなスペースが備えられていきました。旧宮廷の間のみが現存しています。

収獲人戦争(1640-1652)間に軍の宿营地となり、内部にあった火薬庫爆発の結果、その敷地の大半が喪失されました。1948年後半まで、この建造物内に兵が駐在していました。

### ご存知でしたか？

1214年、宮廷の間において当時6歳の子どもが王位に就きました。アラゴン王国領土拡張における策略家であり、偉大なる立法者でもあったハイメ1世(1214-1276)です。リエイダにはこの王によって与えられ、今でも効力を保持する二つの特権があります。ラ・フェリア デ サン ミゲル デ 1232 (コンベンションセンター)とラ・パエリア デ 1264(リエイダ市庁舎)です。

### ここに注目！

宮廷の間は上階テラスとしてすべての来場者の方にお越しいただけます。最も近隣の、そして最も遠方の景色が楽しめる市内一の展望台とされています。



旧宮廷の間 北ファサード



リエイダ、1525年。ジャウメ モレラ美術館、リエイダ (エンリック ガルサバイ)

## 軍要塞

### 17世紀-19世紀

主な要塞は丘の上部にあり、4方位に一致する4棟の強大な防塞によって位置づけられています。北にルヴィニー防塞(1)、南にラ・アスンシオン防塞(2)、東にラ・レイーナ防塞(3)、西にエル・レイ防塞(4)となっています。主要要塞へのアクセス(5)はラ・メディア ルナ ラヴリン(6)と、カタルーニャ地方において最も重要な要塞の一つを担う他の防衛機関、ラ・プンタ デ ディアマンテ(7)、ラ・レングア デ セルピエンテ(8)そしてレオン門(9)の前方に設けられています。

この城塞の建設にあたり、ラ・スダ地区として知られる旧ゴシック地区の消失が前提とされ

ました。もともとは聖職者、貴族、学生の地区として、小規模範囲で考古学的遺跡を取り戻した街の中でも、優れた建造物を保護していました。

### ここに注目！

17世紀以降、丘の上に新たに建てられた防衛施設には傾いた石堀があります。城壁は入城者、退城者によってバラバラなリズムを刻んでいます。その目的は、すべての円状スペースを防衛するための地点や角度の集合体を生み出すことにあります。



レオン門。19世紀

